

日本は防災、インフラ再生を

臨時と年明け常会で補正必要

議員が感
議員痛
足立訪

足立敏之参議院議員は9月28日、記者団と懇談し、8月26日から28日にかけて訪問した台湾での視察や台湾経済界との交流等について報告した。

今回の訪台を通して、激甚化していく災害に対応するための防災の重要性



蔡英文総統に面会する議員団



土砂災害から約10年経過

算の編成が必要だとの認識も示した。

今回の訪台は、同期当選の参議院議員のうち8人と、台湾経済界の若手グループとの交流が目的。足立議員は1日早く台湾入りし、台北市内の都市開発や台湾南部のダム、土砂災害の被災地などを視察した。同期議員との合流後は、経済界と意見交換したほか、蔡英文総統にも面会した。

このうち、被災地の視察では、2009年の豪雨による深層崩壊で、村が丸ごと土砂に飲み込まれ、500人近い村人が

亡くなる大惨事に見舞われた、高雄市の少林村(現在は少林里)を訪問。被災後、約10年が経過したことで、木が茂り、崩壊地の状況が分かりにくくなっていたと言った。

この災害時の雨量は、3時間で390ミリ、24時間で856ミリ。地球温暖化により、台湾より北側に位置する「日本でも、こうした豪雨や自然災害が生じかねない」と述べ、今後、政治活動を通して、こうした大惨事を日本で知ってもらい、自然災害の脅威について社会に警鐘を鳴らし、防災・減災事業の必要性を引き続き訴えていく考えを示した。

また、足立議員は、台湾ではすでに、高速道路の暫定2車線区間がなか

ったことなども指摘。日本のインフラが、アジアNo.1と言っている時代ではないことを実感し、このままでは日本が「インフラ途上国になってしまふ」と危機感をあらわにした。ましてや、日本の高速道路は「概成前に老朽化が始まっている。インフラ水準を世界レベルに引き上げる必要がある」と述べ、インフラ再生にも注力していく考えを示した。

その点、日本で重要インフラの緊急点検が始まり、11月末には政府が対応方策を示すことになったことを足立議員は歓迎。これが秋の臨時国会の補正予算に間に合わなかったとしても、災害の復旧関係は盛り込み、年

明けの通常国会でも補正予算を編成して、インフラの対応策を予算化する必要性を指摘した。

また、議員団は8月28日に台湾総督府を訪れ、蔡英文総統に面会。足立議員は台湾のダムでも堆砂問題が、日本と同様の課題として取り組んでいることを視察できたことを踏まえ、蔡総統に、ダムや防災などの分野で、技術交流を日台で行いたいと持ちかけたと言った。

このほか、足立議員は、台北市内で熊谷組の現地法人・華能營造が中心となつて建設中で、価格が内装抜きで1世帯50〜60億円の超高級レジデンス「陶朱隠園」なども視察。エレベーターで車ごと部屋の前まで上げられると言った。

また、議員団は8月28日に台湾総督府を訪れ、蔡英文総統に面会。足立議員は台湾のダムでも堆砂問題が、日本と同様の課題として取り組んでいることを視察できたことを踏まえ、蔡総統に、ダムや防災などの分野で、技術交流を日台で行いたいと持ちかけたと言った。